

2020年11月17日(火)【外為Lab】松田哲

タイトル:【ニューヨーク株式、最高値更新】

昨日(11月16日)のニューヨーク株式市場で、ダウ平均株価は最高値を更新した。

終値は、29,950.44ドル。

3万ドルに、あとわずかに迫った。

本日(11月17日)の東京株式市場でも、ニューヨーク市場を後追いする格好で、日経平均株価は上昇し、2万6000円台を付けた。

日経平均の2万6000円台は、29年5か月ぶり。

ニューヨーク市場、東京市場ともに、株価上昇の理由は、新型コロナウイルスのワクチン開発への期待感が挙げられる。

確かに、株価上昇は、経済を考えれば、良いことなのだろう。

しかしながら、新型コロナウイルスのワクチン開発に期待感が広がったとはいえ、「新型コロナウイルスによる、経済への悪影響を無視し過ぎなのではないか?」と、疑問に思っている。

+++++

今年の株価上昇は、世界中で行っている金融緩和策の影響が大きい、と考えている。

日本を見ても、新型コロナウイルスへの対応策で、様々な対応策が実施されている。

それらの効果が、有効であるのか否かは、議論の必要なところだが、それはさておき、日銀が行っている大規模金融緩和策により、日本の株価が上昇しているのが、実情と言えるのではないかと考えている。

ここで、疑問に思うことは、新型コロナウイルスにより、日本はもちろんのこと、世界中で、経済に悪影響が出ている、ということ。

欧州をみても、ここにきて、再度のロックダウンが実施されている。

にもかかわらず、世界中の金融緩和策により、行き場の見つからない資金が、株式市場に流れている、ということだ。

経済が拡大して、その環境の良い状態のときに、株価が上昇しているのならば、それは当然のこととして納得がいく。

しかし、失業問題が起こり、倒産する企業が増える中、株価が上昇し続けるのは、不可思議である。

株価上昇に、異を唱えるつもりもないが、株価上昇の裏面に潜む矛盾にも、気を付ける必要がある、と考える次第だ。

+++++

(2020年11月17日東京時間13:05記述)